

話せる関係づくりのための言語活動 ～単元学習「聞き上手になろう」～

藤原一恵

鳥取大学附属中学校 国語科
E-mail: fujiwara_kz@tottori-u.ac.jp

Kazue FUJIWARA (Tottori University Junior High School): Language activities to build relationships that can be spoken — Unit learning "Become a good listener" —

要旨 — 主体的で対話的な学習の中で、多様な表現や考えにふれ、読み取りや考えを深めるためには、「話せる関係」が必要である。共に学ぶグループの仲間との関係づくりをねらって、上手に話を聞くための工夫を学び、実践を繰り返す授業を行った。その効果により、活発に話し合える関係を実現させることができた。

キーワード — 言語活動, 聞き方, 話し合える関係, 話を広げる質問

Abstract — In order to touch various expressions and thoughts, read and deepen thoughts in independent and interactive learning, a “speaking relationship” is necessary. Aiming to build relationships with fellow students in the group, we learned how to listen to the story well and gave a lesson to repeat the practice. Due to the effect, we were able to realize a relationship where we could talk actively.

Key words — Language activities, How to listen Interview

1. はじめに

1.1. 国語学習の課題

COVID-19 感染症流行により、世の中は大きく変化した。人との関わり方も同じで、日々進化していく情報機器を利用した意思疎通や、国際化の発展による多種多様な人との多様で円滑なコミュニケーションを実現するためには、これまで以上に人と関わり、伝え合う経験がより必要となっている。

また、さまざまな災いが起こり、予想困難な時代で社会を託された子ども達には、何事に対しても主体的に考え、行動できる力や、多様な見方・考え方をする上で、よりよい選択ができるスキルが必要である。多様さや複雑さに対応できる柔軟性を身につけた大人として、社会を担ってもらいたい。だからこそ、身につけるべきは「言葉の力」だと考える。「言葉の力」によって自分を表現し、他者と共感し、協力し乗り越えていくことが出来るのだ。

そのためには、今まで以上のコミュニケーション力を求められている。しかし、子ども達は自粛生活が続く中、さまざまな経験を重ねる数多くのチャンスを失ってきた。授業や日々の

生活の中で、「人との関わり方」が分からない子ども達が増えていると感じ、そのことを危惧している。授業の中で、関わり方を学ぶことにも繋がる言語活動を、より多く実践していく必要を感じている。

1.2 生徒の実態

本年度担当する生徒は、コロナ禍の生活を迎えたと同時に、様々な行事が中止や縮小された小学校の最終学年を経験してきている。入学後も例年行っていた宿泊研修は遠足に変更となり、新しい環境で仲間と深く関わる経験ができないまま過ごしている。

その影響があるのか、固定された友達とだけしか関わりが持てない生徒や、日常生活の様々な場面でうまくコミュニケーションがとれない生徒が多くみられる。

国語や学級の班活動では、班の人の意見を聞いてたくさんの考えを紹介しようという活動のときに、自分の考えを発言するのではなく、記録用のホワイトボードと順番に回して書き入れていく作業をしていた。確かに指示されたことが達成される手段ではあるが、話し合

いと言える活動にはなっていなかった。

言葉を交わして共感したり、友達の発言に思わず声をあげてコメントしたりする雰囲気にはとてもほど遠いものだった。

主体的に考え、行動できる力や、多様な見方・考え方をするための活動の場自体が成り立っていない実態があった。

2 単元学習の実践

2.1 単元設定の理由

前述したように、国語の授業においても、話し合いが形式的な意見発表にとどまってしまう、それらの意見を吟味したり、一つを選択したりする話し合いまではできなかった。この現状では、課題や作品について自分なりの考えを伝え合い、多様に多角的に考えられるような深い学びができないということを危惧していた。これは言語活動を行う上でも致命的な現状であった。

理想的なのは互いの気心が知れていて、思いついたことが自然に口に出せるような活動である。ふっと思いついたことは意外に当を得ていることもあるが、それが言える関係がなければ新たな発見や深い学びは生まれにくいであろう。

そこで、生徒同士が互いのことを知るための活動を通して、話しやすい関係をつくり、中学3年間の学習に意欲的に取り組めるよう、自分の考えを自由に発言してもよいのだと実感をさせ、今後の学習をより深いものにしていくことを狙っている。

本単元は、学習指導要領A「話すこと・聞くこと」において以下に相当する。

A 話すこと・聞くこと

(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身につけることができるよう指導する。

ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。

イ 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。

ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫すること。

エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。

オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめること。

今までの「話す・聞く」の学習では「考えていることを言葉でいかに工夫して伝えるか」ということに特化してきた。「話せる」のは、「自分の話を聞いて受け止めてくれる相手」がいてこそであるが、聞く態度(相槌・うなずき・笑顔)の学習にとどまっていた。改めて、「上手な聞き方ができれば、自然に話ができるのではないか」と考え、本単元を設定した。

授業においては、「聞き上手」の方法を物語の登場人物のやり取りの場面や対談形式のテレビ番組から学ばせた。

さらに「相手の話を引き出す質問」「相手の話を受け止めること」を意識するために、インタビューを録画して客観的に振り返り、さらにその振り返りを活かして2回目に挑戦することで、生徒が進んで「聞き上手」を目指したやりくりを行うよう計画した。インタビュー活動だけではなく、録画映像を見て一緒に振り返ることを通して、生徒が積極的に語り合えたり、互いのことを知って自由に発言したりできる関係に近づけることを期待した。

※「相手の話を引き出す質問」について、生徒の授業中の発言で「話を広げる質問」と挙がったため、以降は「話を広げる質問」と表す。

2.2 授業の実践

1 単元名 聞き上手になろう

～もっと知りたいから、話してもらいたい～

2 単元目標 ～学習活動の中の「やりくり」～

○相手の話を受け止め、共感する聞き方ができる。

○自分や友達のインタビューを見て、話を広げる質問をすることができる。

○インタビューや振り返りの活動から、互いのことを知り認め合う関係を築くことができる。

3 学習計画 (全6時間)

第1次 聞き上手とは

(1) 物語から学ぶ「西の魔女が死んだ」 梨木香歩
・登場人物の会話場面から、上手に聞く方法を見つける

(2) 聞き上手さんに学ぶ

タモリさん：テレフォンショッキング

マツコ・デラックスさん：マツコの知らない世界

・2人の話し方から、上手に聞く方法を見つける

第2次 聞き上手になろう (下記実践指導案)

インタビューをして、そのやりとりを振り返ろう

第3次 聞き上手さんコンテスト

- ・学んだことを実践 (聞き上手の技を活かして)
- ・学習の振り返り

公開授業の流れ

学習活動	教師の支援・意図
1 「聞き上手の技」を確認	○物語の人物や、映像から気付いたことを全体で確認し、インタビュー実践への意欲付けをする。
2 「聞き上手の技」を実践 ・「今までで一番うれしかったこと」というテーマでインタビューをする	○「聞き上手の技」を意識しながら実践する。 ・インタビューの様子は録画する。 ◆録音・録画ができるよう、場所移動を促す。 ○話し手も聞き手も客観的に評価する。 ◆具体的なやりとりを取り上げて、うまくいったり、いかなかったりした原因を考えさせる。
3 録画映像を見て振り返る	◎「話が広がる質問」って、どんな質問のことだろう？
4 「話が広がる質問」を考える	◇教師が「話が広がる質問」の提示し、どんな質問がよいのか、具体例で考える。 ◆「話が広がる質問」ができていたか、どんな質問がよかったのかを考えさせる。 ○初回の録画映像を見ながら、反省点を活かして「話が広がる質問」を改めて考える。
5 次時の予告	◇本時の振り返りを活かして2回目の実践をすることを伝える。

○教師の意図 ◇全体への支援
◆個またはグループへの支援

2.3 授業の様子

第1次では、物語の人物のやりとりを読んだ後、誰かと面と向かってじっくりと話をした経験があまりないという生徒が多いことが分かった。

第2次では、テレビ番組の対話から、聞き手がゲストの話を引き出す工夫を探すために、生徒は熱心に番組を視聴していた。「今まであまり意識していなかったけれど、聞き方について見てみると、タモリさんはすごい人なんだと思った。」というコメントが授業後の感想に書かれていた。

生徒が「聞き上手の技」として、20以上挙げたため、5つに絞って実践に臨んだ。

- ① 笑顔で相手を見て
- ② 話しやすくなるように、相手に共感したりほめたりする
- ③ 相手のことばを繰り返したり相槌を打ったりなどして、間を空けない
- ④ 自分のことも話す
- ⑤ 話が広がる質問をする

第3次では、インタビューの様子を録画し、客観的に友達や自分の会話を振り返ることができた。具体的にどんな質問をしたらよかったのかを検討することで、2回目のインタビューでは会話がはずんで、友達の意外な一面を知ることができたグループが多く見られた。

また、2回目のインタビューを「聞き上手さんコンテスト」として審査することで、他のグループの友達の会話の様子や、聞き方の工夫を自分と比較して学ぶことができた。グループ内に限らずに友達のことを知る機会を増やすことにも効果的であった。

3 実践の成果と課題

3.1 単元学習の成果

単元目標に沿って、学習の成果を考察した。

○相手の話を受け止め、共感する聞き方ができる。

話を聞きながら相槌を打ったり、笑顔でうなずいたりする姿が多く見られた。また、興味深かったのは「共感する聞き方」として、生徒の中で出た「気になったことばを繰り返す」という「技」だ。例えば、

A：その旅行で印象に残っているのは何ですか？

B：家族みんなで食べたお好み焼きです。

A：あっ、お好み焼き！私も大好きです。

タレントの会話の中に必ず入っているやりとりに注目して、真似をしていた。

○自分や友達のインタビューを見て、話を広げる質問をすることができる。

これに関しては、難易度が高かったようだ。一問一答にならないような尋ね方というのが、会話をしながらだと思いつかず、録画映像を見ながら反省している生徒が多かった。聞き手であっても、話すことと聞くことを同時に行うには、更にさまざまな言語活動を経験する必要がある。改めて授業で見たタレントの番組を視聴し、「聞き方」のすごさを実感したと話してくれる生徒もいた。

今後はもっと話しやすい関係になっていけると想定すると、話を広げる質問ができることも期待できる。期間を空けて、インタビューに取り組んでみたい。

○インタビューや振り返りの活動から、互いのことを知り認め合う関係を築くことができる。

この度の単元学習を終えて、グループ学習の期間を終了したのだが、一斉授業であっても以前よりも生徒の発表やうなずき、つぶやきが増えていた。また、グループ学習の際には以前よりも自然に会話をし、課題に取り組む姿を全てのグループで見ることができた。互いのことを知ることで、話せる関係がくれたように感じる。

○実践において効果があったこと

教材を探すなどの苦労はあったが、よくテレビで視聴する番組を、視点を変えてみたことは生徒にとって新鮮だったようだ。注意深く見ていたし、細かいところにも気づけていたのは効果的であった。また、平成25年度全国学力・学習状況調査：授業アイデア例に「話し合いの様子を動画で記録し、発言の仕方や内容を振り返るように指導することも効果的である」とあるように、自分の話し方やその内容を客観的に評価できたことも効果的であった。ただ、撮影においては、音声をはっきりと記録するためにカメラの角度や距離などを工夫していたが、一斉の活動になると、周りの声に消されてしまうことがあったため、環境を整えることは課題となった。

3.2 今後の課題

今回の授業設計の大きなねらいは「話せる

関係づくり」であった。それに関してはかなり成果があったと感じている。この学習を経験して、生徒たちはIT機器を使った言語活動のおもしろさにも気づけた。「話す・聞く」活動は、今までそれを客観的に振り返ることが難しかった。しかし、今後はそれも可能になるので、多様な活用方法を実践していきたいと考えている。

また、このような言語活動は「楽しかった」でおわらせないために、意義や目的を明確にして取り組む必要がある。そして、学習後の振り返りをていねいに行って日々の生活に活かす必要がある。授業での学びが、生活の中でどのように活かしているかを把握できるとより具体的な言語活動を取り入れた授業開発ができるのではないかと考え、実態調査を取り入れていきたい。

- ・聞くのがうまくなると相手にもどんどん話してもらえし、楽しいのでとてもいいなと思いました。こういう聞く力を日常生活にも活かしていきたいなと思った。
- ・「こうしよう」「ああしよう」と言うだけなら簡単だが、それを相手の反応に合わせて聞いていくのは意外と難しかった。他の人の話を聞いていると話が広がる質問や、自分の意見を言って相手の考えを引き出すことができているので試したい。
- ・家でも「マツコの知らない世界」を見て、相槌やリアクションを学んだりしました。私は特に間を空けない。そのためにはリアクションをとることを意識しました。この学習で班の仲が深まり、これからの学習でも意見を言い合えるようになると思います。
- ・実際にやってみると、質問攻めになってしまったので、普段の生活では気をつけて話したいです。
- ・普段何かを質問しているテレビ番組を何も思わずに見ていたけど、いろいろ工夫をして相手と会話を続けていることが分かった。実際にしてみるとすごく難しかったので、これからうまくなりたい。
- ・他の班が思ったよりうまく話せていて、僕たちの班はやばいと思った。でも、班のみんなとたくさんしゃべれるようになってうれしかった。

【生徒の振り返り】

参考文献

- ・中学校学習指導要領（平成29年告示）文部科学省
- ・平成25年度全国学力・学習状況調査：授業アイデア例。文部科学省